第15回「ＪＴＢ交流創造賞」決まる

ＪＴＢは16日、第15回「ＪＴＢ交流創造賞」の受賞作品を発表した。新たな知恵や特性を生かした観光交流、地域活性化の取り組みを表彰する「組織・団体部門」では、マリン・ツーリズム山田（岩手県山田町）の「漁師が地元の海をまるごと魅せる！漁船クルーズで町を活性化」が最優秀賞に決まった。ＪＴＢ交流創造賞は、地域に根ざした持続的な交流の創造と各地域の魅力の創出、地域の活性化に寄与することを目的として2005年に創設された。

1月16日に開催された授賞式の様子

最優秀賞

漁師が地元の海をまるごと魅せる！漁船クルーズで町を活性化

岩手県山田町

マリン・ツーリズム山田

漁師の船で行く山田湾クルーズ

養殖いかだ見学コースの様子

観光客と漁師に相乗効果

「マリン・ツーリズム山田」のブランド化と、漁業の復興、そしてさらなる発展を目指す。

【評価のポイント】

◆観光客は山田町の漁師たちの「生きがい」を通じて、山田町ならではのリアルな体験を楽しみ、そこで生まれた今までない交流によって漁師は「やりがい」を感じ、双方に大きな相乗効果が生まれていることを評価する。

◆16年の再開以降、着実に規模を拡大しており（19年9月時点で千人以上を受け入れ。再開当初の約3倍）、地元の人々のエネルギーが交流の源流としてしっかりと根付いている点。

◆復興支援のみならず、真に地域の人と資源、そしてアイデアによって活動を盛り上げ、思いを見える化し、観光客を巻き込むことに成功している。今後の事業予定からもさらなる発展が期待できる。

受賞の喜び

活動をサポートするやまだワンダフル体験ビューロー　服部真理さん

小さな町の漁師たちが自分たちの漁業をやりながら頑張ってやっている活動が全国的に認められて良かった。

正直に言うと応募したのは百万円の賞金が目当て（笑）。これでいろいろな備品をそろえられる。

「持続可能な観光」を応援

ＪＴＢ
社長執行役員
髙橋広行

まずは、受賞された皆さまにお祝い申し上げます。

ＪＴＢグループは、ＪＴＢならではのソリューション（商品、サービス、情報および仕組み）の提供により、地球を舞台にあらゆる交流を創造し、お客さまの感動、共感を呼び起こす「交流創造事業」を事業ドメインとして掲げ、グループをあげて第三の創業にチャレンジしております。

「ＪＴＢ交流創造賞」は2005年に創設し、今年度で15回目を迎えることができました。ＪＴＢ交流創造賞の大きな特徴は、地域の独自性が生かされ、今後の発展が期待できる「持続可能な観光」を応援する賞だということです。

今回も各地における観光振興に対する斬新な取り組みを表彰し、交流を創造することに寄与してまいります。受賞地域の「これから」に、ぜひご期待ください。

優秀賞

映画×文化×まち　新しいことをカタチに！日本最古級の映画館「高田世界館」の挑戦。

新潟県上越市

NPO法人　街なか映画館再生委員会

まちのにぎわい創出

新潟県上越市高田地区で芝居小屋「高田座」として1911年（明治44年）に開業し、1916年（大正5年）に改称した「高田世界館」をメインステーションとした取り組み。NPO法人「街なか映画館再生委員会」は地域の人々との協力をもとに設立された運営団体で、高田世界館の保存や上映活動を行っている。日本最古級とも言われる、稀有な歴史的産業遺産、有形文化財である「高田世界館」の魅力を活用、発信していくことで、映画館だけでなく、人々、まち、周辺地域のにぎわいを再生させることを目標としている。

【評価のポイント】

◆古き良き日本の原風景とも言える高田世界館の魅力を改めて県内外へと広く発信していくことによって、まちのにぎわいを創り出し、地域ブランド、市民のプライドやアイデンティティーの象徴として、大きな価値をもたらしている。

◆映画という既存のコンテンツに、交流を創出するユニークな企画を数多く盛り込むことで、施設の存続のみならず、再生～さらなる発展を促すことに成功している点を評価する。

◆再生を遂げる高田地区で、そのランドマークとしても注目を集め、今後も地域と観光客の交流のハブとして期待できる。また、このような地域市民主体での文化・芸術的取り組みの存在意義は大きいと考える。

有形文化財の高田世界館

優秀賞

ＪＲ三江線の廃止を乗り越え“天空の駅”一帯を廃線の聖地に

島根県邑南町

旧服部医院を再活用する会

人々の交流を生み出す

2018年3月に廃線となったＪＲ三江線の邑南町にある宇都井駅と口羽駅、その周辺施設一帯を観光と交流の拠点として盛り上げていく取り組み。宇都井駅は日本一高い駅舎（地上20㍍）として「天空の駅」と呼ばれ、また、周辺には邑南町宇都井の歴史を物語る旧服部医院が残されている。近年は人口減少が進み、高齢化率は56％の限界集落となっている。宇都井駅と旧服部医院を中心に、周辺一帯の観光資源・資産を活用しながら、観光人口、交流人口の継続的な増加と地域を活性化させる取り組みを続けている。

【評価のポイント】

◆ライトアップイベント「ＩＮＡＫＡイルミ」やマルシェ、トロッコイベントなど、観光資源の魅力を最大化しながら、鉄道ファンに限らず多くの人々との交流を生み出す取り組みが評価に値する。

◆宇都井駅だけでなく、旧服部医院など周辺の観光資源を再発掘、再利用、再発信することで、カフェ＆ゲストハウス「うづい通信部」、ワークショップ、交流会など、地域全体を回遊する仕組みをつくっている。

◆象徴的な観光遺産や里山の風景、地区の歴史、グルメ、クラウドファンディング財源、鉄道公園構想など、地域資源を活用した交流の促進や活性化、そして持続可能な観光地化計画など、地域が一体となった模範的なプロジェクトとなっている。

旧ＪＲ三江線宇都井駅

選考委員特別賞

世界一ビールが楽しいまち遠野・ビールの里実現に向けた取り組み

岩手県遠野市

株式会社BrewGood（ビールの里まちづくり協議会事務局）

6次産業を体系化

ビールの原材料に欠かせないホップの日本有数の栽培地である岩手県遠野市。56年の歴史があり、今も日本一の栽培面積を誇る一方、高齢化や後継者不足によって生産量は激減してきている。このような状況を前に酒造メーカーと遠野市はホップ農業衰退の解決を目指し取り組みを始め、2015年からは「ホップの里からビールの里へ」というビジョンを掲げている。18年10月からはこの「ビールの里構想」を持続的にマネジメントしていくための事務局として、ＢｒｅｗＧｏｏｄを設立。ホップ農業の未来だけでなく、地域全体を含めた活性化を目標に多角的な取り組みを行っている。

【評価のポイント】

◆ホップ栽培農業が直面する危機を乗り越えるだけではなく、「ホップの里からビールの里へ」という明確なビジョンのもと、遠野市のビールづくりを起点にした6次産業を体系化し、さまざまなセクターに広くメリットや利益をもたらす事業構造をつくっている。

◆観光交流として着実に来場者実績を伸ばしており、ビールを消費するだけではないファンやサポーターなどから多くの支援を受けている。若手のサポーターや移住者なども増えており、遠野市の国産ホップ栽培の次世代を担う人材の育成に成功している。

◆地域が抱える課題を新しい視点と斬新なアイデア、実利的な事業構想などによってブレイクスルーし、さらなる可能性へとつなげている。北海道や青森のホップ農家も遠野市同様に状況は深刻化しており、日本全国でも農業の衰退や後継者不足に悩む地域は多いが、今回の取り組みは一つのモデルケースとして着目すべき。

ビアツーリズム

「漁師が地元の海をまるごと魅せる!
漁船クルーズで街を活性化」

「カールの次はカール」

JTBは、地域・文化・人との新しい出会い、「交流創造」を支援・推進します。

JTB交流創造賞

JTB交流創造賞は、地域に根ざした持続的な交流の創造と地域の活性化に寄与することを目的として、2005年に創設されました。以来、10年以上にわたり、地域・文化そして人との新しい出会いを応援すると共に、地域の取り組みを表彰しています。
第15回「JTB交流創造賞」では、多数のご応募をいただき、ありがとうございました。
これからも本賞を通じて、様々な交流の広がりと地域の発展に寄与してまいります。

「島バナナゆれて」

「自分ルーツの旅」

JTB交流創造賞　検索

JTB　感動のそばに、いつも。